

友だち100人できるかなプロジェクト  
横浜市立大口台小学校の取り組み



テーマ1：主体的に人とかかわる力をつけよう！！

1，テーマにかかわって

4年生になった。担任だけがかわって、クラス替えのなかった学級である。当然，子どもたちの友だち関係は固定化されつつあった。また，男子9名・女子18名という構成メンバーのアンバランスもあった。

そこで，教室という枠から飛び出し，もっと積極的に人とかわり人間関係を広げる体験をさせたいと，このテーマを設定した。

4年生になったよ。  
今年は，全国の学校と  
交流してもっと友だち  
を増やそうよ！



自己紹介、学校、地  
域の紹介したいな。

メールのやりとりや  
名物の交換なんかも  
たくさんしたいな。

交流したいことを話し合う子どもたち

2，実際に起こったこと

(1)一緒にゴーヤ・大豆・落花生を育てよう！



育て方を発表しよう子どもたち



全国の友だちと一斉に種まきする

枕崎小・旭東小・大徳小から送っていただいた種は，封を切らずに教室に持っていった。教室で子どもたちに切らせ，わくわく感を共有したかったからだ。子どもたちは，予想通り大喜びであった。

そして、いろいろな学校からいただいた種だということ、育て方を調べて発表し合うときも、種まきをして芽が出るのをまっているときも、「大事にしたい」という思いが感じられた。この気持ちは、教師が用意した種では持ち得なかったものであろう。



手紙を書いたよ！と記念写真を撮る。



待ちに待ったゴーヤの芽

さらに、この気持ちは、国語で手紙の学習を生かしてお礼の手紙を書いたり、なかなか芽が出ないのを心配して「どうしらよいか」という相談メールを出したりという、積極的にかかわる姿としてあらわれた。



育ったゴーヤ



ゴーヤチャンプルを作る

また、大きさを知らせるメールでは、大きさが伝わるように「34cm」などという表示をして送る子どももでてきた。このように、メールでのかかわりの中で主体的にかかわるうちに相手を意識したり、(2)にあるような人に対する思いやりの育ちが見られるようになってきたりしている。

最近では、実った実を「みんなで食べたい！」と料理に挑戦したが、「にがい！まずい！」の感想が圧倒的であった。今、子どもたちは実を送っていただいた枕崎小の子どもたちに、そのことを正直に知らせた方がいいのか、それともそれでは気を悪くするので何か工夫した方がいいのか、どう知らせたらよいか迷っているところである。

(2) メールは相手のことも考えて送ろう！

Yちゃんはクラスの中で「落花生の部屋」に一番初めにメールを送った。けれども、楽しみにしていてもなかなか返事がこなかった。

ちょうど、ワールドカップの時期になり、横浜国際競技場で決勝戦が行なわれることが教室で話題になっていたため、そのことを書いて送った。楽しい気持ちを他の人とも共有したいと思ったのであろう。ところが...「返事がきているかなあ」とニコニ

コしながら見ていたＹちゃんの目に写ったのは「あっそう。それで…」というそっけない返事だった。「なんか、悲しいな」というＹちゃん。

そこで、教師は、Ｙちゃんの思いを学級のみんなで感じ合うと共に、そういうメールを出した相手の思いも想像してみようと、話し合いの場をもった。初めのうちは、そんなメールをもらったＹちゃんに同情的な意見が大半を占めたが、Ｙくんが「でも、落花生の部屋に突然ワールドカップの話なんかがあったから、向こうの人はびっくりしたんじゃないかな」という意見が発端となり、もっとこう書けばよかったという相手をイメージした話し合いへと発展していった。

このようなことを積み重ねながら「コンピュータの向こうには、自分と同じ人がいる。どう接したらいいのか」という相手を思いやる気持ちを育てていきたいと思う。

また、この件では、相手校の先生も、ご自分の学校の子どもたちにもよい学びになるとらえてくださり、適切に支援して下さった。後日Ｙちゃんには謝りのお手紙が届き、初めて個人宛の手紙が来たので、他の子どもたちはとてもうらやましがっていた。